

○ 中学校社会 第2学年 ②

「日本の人口と人口問題」

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領との関連	評価の観点		
			関 意 態	思 判 表	知 技 理
(1)	単純に割合を求めるだけの問題である。 ただし、自らが計算して割合を求めることにより、「2010年の学生数は1961年時の37%にまで減少した」という少子化の進行についての主体的な認識を促進する意図がある。	地理的分野－内容(2)日本の様々な地域－イ世界と比べた日本の地域的特色－(イ)人口のうち、「日本の人口や人口問題」についての活用問題である。		○	
(2)	資料の示す平均結婚年齢から、第一次ベビーブーム世代の子どもたちが1985年頃に中学生くらいとなっていることを考察し、その関連を説明する問題である。 2つの資料や生活経験知識などから事象間の関係を考察する力が必要である。	通常の授業では、「日本は少子化や高齢化が進行し切実な問題となっていること」や「利便性の高い場所へ人口が集中するため、過疎や過密地域が生じている」ことについて理解することがねらいとされる。	◎	○	
(3)	2010年の65歳人口が極端に少ない理由について、その人たちが生まれたのが1945年であることに気付き、既習知識である太平洋戦争との因果関係を導き出す問題である。 歴史的な知識も必要である。	その理解内容等を、宮崎県の人口構成や人口動態などに転用させたり、歴史的事象と関連付けたりしながら考察させる問題としている。		◎	○
(4)	資料3・5から、「宮崎県は17歳までの人口割合は高いが、20歳時(19歳以降)はその割合が減少する」ことを読み取り、資料6から得られる情報をもとに、その理由が「大学数や事業所数が少ないため、県外へ流出しているため」であることについて考察する問題である。		◎	○	